NEWS RELEASE

令和8年11月18日14:00資料配布

国土交通省 神戸運輸監理部

こうべぇ

外国人留学生127名が神戸港の物流現場を見学

～見学後のアンケートで 74%が「日本の物流会社で働いてみたい」～

神戸運輸監理部は、兵庫県倉庫協会と共同で、令和8年10月30日(金)、ECC 国際外語専門学校(大阪市)で国際ビジネスを学ぶ外国人留学生127名を対象に「神戸港物流施設見学会」を開催しました。倉庫業をはじめとする物流業界への理解を深め、将来の人材確保につなげることが目的です。

留学生たちは、同校での講義の後、神戸港の大型物流倉庫やコンテナターミナルを訪れ、遊覧船から港の物流施設を見学しました。見学後のアンケート(回答者113名)では、74%が「将来、日本の物流会社で働いてみたい」と回答しました。

■ 見学会の概要

日　時:令和8年10月30日(金)9時30分～16時30分
参加者:ECC 国際外語専門学校の外国人留学生127名
　　(グローバルビジネスコース 1 年生　主な出身国:ミャンマー、ベトナム、ネパール)
共　催:国土交通省神戸運輸監理部、兵庫県倉庫協会
協　力:森本倉庫株式会社、三井倉庫株式会社、一般財団法人神戸観光局

■ 背景・ねらい

物流業界では、いわゆる「物流の2024年問題」などにより、担い手の確保が課題となる中、語学力や異文化理解力を持つ外国人留学生は、貿易や輸送などの分野での活躍が期待されています。

当運輸監理部は、これまで高校生や専門学校生を対象とした物流施設見学会を開催してきました。今回は、日本の物流や倉庫業を「学ぶ」講義と、神戸港の物流現場を「見る」見学を組み合わせて実施しました。

■ 参加者の声

・「実際に見学して、港の仕事は想像していたよりずっとスケールが大きいと分かりました。私たちの生活は世界中の貿易とつながっているのだと、ものの見方が変わりました。」
・「貿易は船で商品を運ぶだけでなく、倉庫での保管など、多くの仕事に支えられていることが分かりました。」
・「たくさんのコンテナが効率よく運ばれている様子が印象に残りました。普段の生活ではあまり意識しない物流の大切さを改めて感じました。」



【森本倉庫株式会社　六甲アイランド営業所で説明を受ける留学生】

■ 当日の内容

1. 日本の物流を「学ぶ」（ECC 国際外語専門学校1号館・大阪市）

神戸運輸監理部と兵庫県倉庫協会が講義を行い、日本の物流の現状と課題、神戸港の物流、倉庫業の仕事を紹介しました。




【写真左：神戸運輸監理部の講義／写真右：兵庫県倉庫協会の講義】

2. 神戸港の物流現場を「見る」（六甲アイランド）

大型物流倉庫（森本倉庫株式会社　六甲アイランド営業所）を訪れ、担当者から倉庫の役割や保管・荷役の仕事について説明を受けました。

続いて、バスの車内から三井倉庫株式会社　六甲アイランドコンテナターミナルを見学し、大型クレーンによるコンテナの荷役作業などを間近に見学しました。学生からは「コンテナは何段まで積み上げることができますか？」「コンテナの破損が見つかった場合はどうするのですか？」などの質問が次々に寄せられました。

3. 海上から神戸港を「見る」（遊覧船「ロイヤルプリンセス」）

中突堤中央ターミナルから遊覧船に乗り、神戸港の物流施設を見学しました。当日の港は雨と霧に包まれていましたが、学生たちは、陸上とは違う角度から倉庫やコンテナターミナルの姿を確認していました。




【写真左：バスからコンテナターミナル見学・熱心に質問する学生たち／写真右：船から神戸港を見学】

■ 今後の取組

神戸運輸監理部は今後も、業界団体や教育機関と連携し、若者や外国人留学生が物流業界を将来の進路の一つとして考えるきっかけづくりに取り組みます。

配布先
神戸海運記者クラブ 兵庫県政記者クラブ

問い合わせ先
神戸運輸監理部　総務企画部　物流施設対策官　担当：大前 電話：078－321－3145（平日8時30分～11時45分、13時～17時） e-mail：kbm-butsuryu@gxb.mlit.go.jp